

「家庭学習MGC」実践例

鹿屋市
教育委員会

鹿屋小学校6年

○ 家庭学習の基本的な考え方

- ★ 教師から出された宿題をただ済ませるのではなく、「なぜ家庭学習をするのか」といった家庭学習の目的や意義を子供と共有することで、子供が主体的に家庭学習に取り組むことができるようとする。
- ★ 授業終末時で「振り返り」で自覚した「問い合わせ」を解決したり、追究したりすることができるよう、家庭学習で「何を」「どのような方法で」取り組むのかを子供自ら計画することで、探究的な学習として取り組むことができる。
- ★ 単元テストの目標点に向けて、復習する必要があると考える内容、苦手意識のある内容、自信がない内容を子供自身が把握して、その内容を自分にとって定着が図れることができると考える方法で家庭学習に取り組むことによって、「学び方」を学ぶことができる。
- ★ 家庭学習で児童が自分の考えを事前に考えてくる予習型学習を行うことで、授業で友達の考えと比較・関連付けて考える練り上げの時間を確保することができ、多様な「見方」を獲得する深い学びにつなげることができます。

週報に載せた保護者へのお知らせ

鹿屋小学校では、自分で計画を立て、実行し、振り返って反省をよりよい活動につなげていくサイクルを回す「自己調整する学び」に取り組んでいます。そこで、週末に自分で計画を立て家庭学習を行う「6年2組マイゴールチャレンジ」を始めています。今まで「なんとなく、やらされている」宿題から、「自分の目的をしっかりとやって行う」宿題に意識を変えていこうという取組です。子供たちは自分で週末の予定を立て、計画に沿って取り組んだり修正したりしながら頑張って取り組んでいます。内容も「テストに向けた宅習」や「できなかった問題にもう一回挑戦する」など、何のために宿題をするのかを考えながらする宿題に変わってきました。これを続けていくことで自己調整する力が身に付いていくと思います。頑張って続けてほしいです。

○ MGCの取組

【小学6年生 家庭学習のMGC】

自己調整する力を高めるために、見通し・実行・振り返りのサイクルを回しながら取り組んだ家庭学習

★ポイント

- 毎週金曜日の朝の活動の10分間を用いて、今週末の宿題の計画を立てたり、何の目的のために自主学習を行うのか考えたりする。
- 家庭学習後に自分の立てた計画や学び方はどうだったか振り返りを行い、今後の学習に生かせるようにする。
- 「やらされる」宿題から、「〇〇のために宿題をする」という意識が高まってきた。
- 自分の目的に合わせた自主学習ノートになってきた。

鹿屋小6-2 家庭学習マイゴールチャレンジ① 見通し(計画)

① 今週末の宿題

毎日記 漢字 宅習・英語 ロプリント(2枚)
□らくらくノート()ページ 口音読(英語のやり立ち)
□その他()

② 今週末の予定(用事・習い事・少年団など)と宿題の予定

曜日	予定	宿題の予定(いつ、どの宿題をどれくらいするか)
金	金管	
土	プリント(1枚)	
日	金管	

③ 宅習の目的と内容 <宅習に書く教科… 算数 >

宅習の目的(なんのために宅習をするか)	宅習の内容(何を書くか)
□テストが近いからテスト勉強のために。 □分からないところができるようになるために。 □「はかせ」や「まとめ」、「ポイント」などを読んで書く。 □学習したこと覚えるため。 □学習したこと覚えて予習をするため。 □学習したこと他の問題にいかしたい。 □授業や生活の中で疑問に思ったことを解決したい。 □その他(プリントやり直し)	□ノートや教科書の「はかせ」や「まとめ」、「ポイント」などを読んで書く。 □教科書などの練習問題に取り組む。 □教科書などの発展問題に取り組む。 □次の時間に学習するところをまとめたり問題を整理したりする。 □授業や生活の中で疑問に思ったことを聞いて、調べてまとめる。 □学んだことをいかして実践し、それをまとめる。 □その他(プリントのやり直し)

④ 計画に沿って、宿題や宅習をしよう。

⑤ 計画の振り返り

・自分の立てた計画の達成度 … ○・△・×
・うまくいったところ、もう少しだったところ、ここをこうしたら次はよくなる
今回(1)、土曜日に終らなかったところ、また(2)テストをしたから、(3)宿題を終わらせてから(4)プリントをやり直したい。

振り返り

自分の取組の振り返りや、うまくいったことなどを書く。



「家庭学習MGC」実践例

垂水市
教育委員会

新城小学校 3・4年

○ 家庭学習の基本的な考え方

- ★ 小学校6年間の最終ゴールとして、自分で家庭学習の内容を選択・決定して取り組めるよう、教師は伴走者として子供に寄り添いながら、家庭学習の取組を支援する。
- ★ 1・2年生は、教師が提示した漢字、計算、プリント等の課題に確実に取り組めるよう家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る(家庭学習の手引を配布・活用)。
- ★ 3年生以上は、本市で取り組んでいる予習型反転学習と関連付け、授業の内容や学習計画を基に、家庭学習の内容や量を自己選択・自己決定して取り組む。また、教師はタブレット端末を活用して、家庭学習の取組状況を把握し、子供の主体的な学びにつながる助言を行う。

令和6年度から、3年生以上で「家庭学習新城ランチボックス」システムを取り入れている。家庭学習のはたらきを「授業がよく分かる身につくはたらき」「苦手を減らすはたらき」「好きや得意を伸ばし増やすはたらき」の三つに分類している。

それぞれの働きに係る課題の例等について、年度当初に子供や保護者と共に理解を図る。教師は、子供の学びに寄り添いながら、子供が主体的に家庭学習に取り組めるよう支援している。



○ MGCの取組

【小学3・4年生 学級活動のMGC】

主体的な家庭学習とするために、内容や量を自己選択・自己決定して作成した計画表を基に取り組む家庭学習

★ポイント

- 1年間のスタートにあたり、家庭学習の内容や量を自己選択・自己決定して取り組めるよう、授業参観で、保護者に子供が家庭学習の計画を立てる様子を参観していただいた。
- この授業の導入で、教師は、各教科等の学習計画表を配布した。その際、子供に「自分の苦手を減らすはたらきの学習に取り組む必要がある教科はどれですか。そして、その理由も教えてください。」と問い合わせて、子供がどのような目標で家庭学習に取り組みたいか考え、意欲を高めた。
- 授業の展開で、タブレット端末を活用し、1週間分の家庭学習計画表を作成した。教師は、子供の計画表を参照し、一人一人に家庭学習の内容や量について助言した。
- 授業の終末で、各自が作成した家庭学習計画表を発表し、今後の家庭学習への意欲付けを図った。



家庭学習のはたらきについて教師の説明を聞く子供

マイゴール チャレンジの例

- AIドリルを活用して、家庭学習の内容と量を決め、計画的に自分の得意を伸ばすよう取り組む。
- 社会科の授業で取り組んだ調べ学習のパンフレットをよりよいものにするため、オンラインアプリを活用し、家庭でも継続して取り組む。
- 明日の授業で取り組む算数の問題を家庭で事前に解き、授業の話合い活動に自分から進んで取り組む。
- 漢字テストで間違えた苦手な漢字については、毎日時間を決めて繰り返し練習するなど苦手なことにも取り組む。

(様式1)

「家庭学習MGC」実践例

曾於市
教育委員会

○ 家庭学習の基本的な考え方

1. 学習スペースの整理整頓
2. 集中できる環境での学習
3. 決められた時間での自宅学習
4. 家庭学習の見届け・励まし・声かけ
5. メディアの家庭のルールを守る。

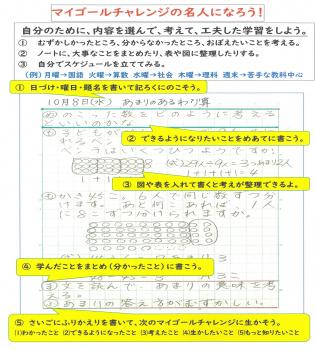
ちゃれんじ週間の取組

ちゃれんじカード 11月									
曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	月曜	火曜
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
30	1	2	3	4	5	6	7	8	9

- 【家庭学習を充実させるための流れ】
- PTA総会・家庭教育学級での家庭学習の効果や必要性、方法についての説明
 - 学級PTAで、担任による進捗状況の確認
 - 学級活動において子供たちが主体的に取り組む力を育成するための指導
 - 子供の日々の取組への称賛

光神小学校 3・4年

家庭学習のしかた（配付資料）



子供の取組への称賛（教室掲示）



○ MGCの取組

【小学3・4年生 国語・算数のMGC】

「子供が自走するために、自主的に取り組んだ家庭学習」

★ポイント1【NIE教育を取り入れた家庭学習】

本校は、学習者主体の学びの一つとしてNIE教育に取り組んでいます。子供たちは、新聞を読み自分で興味のある記事や与えられたテーマから記事を探し、考えや感想を書くようになってきました。家庭学習でも週末に取り組む機会を増やしていく。

☆子供の変容

NIE教育を教育活動から家庭学習にも反映させたことで、新聞に興味を示す子供が増えた。また、着目する視点が子供によって違うため、自分の考えと友達の考えを比較しながら思考する姿も見えてきた。

★ポイント2【宅習（自学ノート）の活用】

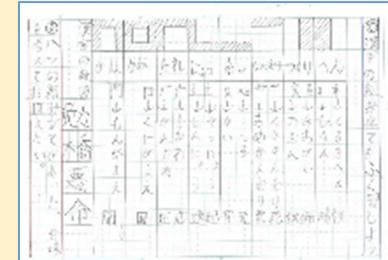
自学のノートの活用を図り、一日の学びを振り返りながら自分の課題や分からなさがどこにあるのかを自覚できるようにした。自学ノートは、3年生から始められるように学校で書き方や内容を指導し、子供ができるようになった時点で家庭学習に取り入れるようにした。段階を踏まえて指導し、系統的に充実した内容につなげていくようにする。

☆子供の変容

本校は少人数のため、子供一人一人の苦手な教科や内容を宅習の個別テーマにすることもある。子供たちも少しずつ、ノートの書き方や学習内容が分かる宅習の活用の仕方も理解してきた。与えられたプリント学習だけではなく、自分が選択できる学習は、試行錯誤しながら考え、自分の学びのための学習となっている。

※ 3年A児

漢字の部首に苦手意識があったため、教科書やドリルを参考に学習を進めた。



※ 4年B児

特に指示を出さずに宅習に取り組ませたが算数の割合に課題があることを自覚しており、その内容を自学ノートにまとめた。

図や表を使い、考え方を整理できるようになってきている。

